
お前に食わせるチョコは無い。

浅島 護

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お前に食わせるチヨコは無い。

【Nコード】

N6624D

【作者名】

浅島 護

【あらすじ】

初めて(?)の短編投稿！それは今日という日に最も相応しい小説...では「ゆるり」とびびろー！

「あ、おはよう・・・」

クラスの友達に気のない挨拶をしながら工藤誠は席に着いた。

「お、工藤！今日何の日だか知ってるかあ？」

隣の席の河本が話しかけてきた。

「え？ええつと・・・何だっけ？」

わざと知らないふりをした。

「バツ力だなあ、こんな日忘れるってお前大丈夫か・・・？」

『バカなのはお前だよ』と思いつつも誠は言った。

「わかってるよ。あれだろ？バレンタインデーだろ？」

ご名答！と言う河本。それを尻目に誠は机の上にへばりつき始めた。それからも川面とは話しかけるが誠はほとんど聞いていなかった。

正直なところ、誠にとってバレンタインデーなどどうでも良かった。18年間の今までこの日は全然いいことが無かったからだ。

「あ・・・工藤君」

声の方へ顔を向けると、ドアの向こうに女の子が立っていた。それを見て気だるそうに誠は立ち上がる。

「おい！・・・ちよつと待てよっ！」

あまりにもだらしなさそうだったので河本が引き止める。

「な、なんだよ！」

「おいおいおい・・・お前、あんな子といつ知り合っただ？」

「しらねーよ」

「何だよあ・・・しゃーねーなあ・・・ま、がんばってこいやー！
バンツ！と思いきり背中を叩かれ見送られた。

「く、工藤君・・・」

「何？」

ぶつきらぼくに誠は振舞った。

「あ、あ・・・こ、これ・・・」

震える手にはチョコレート。『こんな大胆なのありかよ』といぶか
しみながらも内心少し嬉しかった。・・・が、それも少しの間だっ
た。

「こ・・・これを、か、河本竜司君に・・・」
そう言い残し、全速力で逃げてしまった。

「な・・・何なんだよ・・・」
ぼそりとつぶやいた。

「おお〜い！誠！！どうしたんだ??」

思考が回復するまで数分かかってしまった。元通りになってから落
ち着いてチョコを渡す。貰った河本は今までにありえないくらい喜
んでいた。

「わあい!!!チョコだあっ!!!」

その叫び声は授業中にもしばしば聞こえてきて教師に何度も注意を
受けた。もちろん笑いの的になったことは言うまでもない。しかし、
本人にはまったく関係なかった。

「はあ・・・」

逆に誠は休み時間ごとと呼ばれるものの、結局は別の人に渡して欲
しいと請け負っただけだった。だが、その度に淡い期待をする誠は
バカであった。

「はあ・・・これで11回目か・・・」

「おお！今年も記録更新しそうだなあ！」

机と同化しそうなほど張り付く誠。それを異様なにやけ顔で河本が
見つめる。

「うつせーなあ・・・どっかいけよ」

うひゃうひゃと異様な笑い声を上げながら河本はどこかへ行ってし
まった。昼からの授業もまったく精が出ない。『まったく・・・な
んで俺だけが・・・』

キーンコーンカーンコーン・・・

とうとう今日の学校が終わってしまった。

「あゝあ・・・」

大きな溜め息をつきながら誠は帰ろうとロッカーの荷物を片付けていると平たい箱がぼとりと落ちた。

『こ……これは……!』

辺りを見回し、自分のロッカーからこれが落ちてきたことを改めて確認すると、それを急いでかばんにしまい、全速力で帰った。

ようやく部屋までたどり着いた誠は、ドアに鍵をかけ、机に向かった。

「はぁ……はぁ……」

あせる気持ちを落ち着かせ、かばんから『例の物』を取り出した。

「あ、明らかに……チョコだよな……」

嬉しさのあまり誠は叫んだ。

「とうとう俺にも……この、俺様にもおっ!」

耳が熱くなるのを感じる。落ち着こうとしてもどうしても指が震えてしまう。

『ええい! やけくそじゃ!』

やっきになって箱を破いた。中には確かにチョコが入っている。それともうひとつ。

「手紙……?」

小さな紙切れのようなものが入っていた。それをゆっくりと開き見た。見たとたんに凍り付いてしまった。そして倒れる直前に彼は叫んだ。

「河本おっ!!!!!!!!!!!!!!」

(後書き)

久しぶりの小説なので、少しだけ緊張だったり…まあ、まだまだだ
けどね(笑)これからも頑張れるように頑張りますっ！自分自身の
ためと、こんな自分を見てくださる数少ない読者様のために…書い
てたら日にちが変わってしまった(汗)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6624d/>

お前に食わせるチョコは無い。

2010年10月11日00時24分発行